

1. 主題名 第3学年道徳「みんなちがって、みんないい」

2. ねらい

お互いの違いを認め、友だちとして理解し合い、助け合おうとする心情を育てる。

3. 指導計画（3時間）

時間	資料名	ねらい	育てる資質・能力と指導上の留意点
1時間	「そうそう、そこが同じ！ そうそう、そこがちがう！」 （日本標準「みんなで考える道徳」から）	友だちと同じところ、違うところをさがすゲームを通して、お互いに違いがあることに気づかせる。	【他の個性の認識と相互の尊重】 気の合う友だち同士だけで仲間を作るのではなく、男女を問わず誰とでも互いによく理解し、信頼し、助け合えるようにする。
2時間	「みんなちがって、みんないい」 （「TOS S道徳教育研究会」資料改） 「友だちのよいところを見つけよう」 （文部科学省「心のノート」から）	友だちのよさと自分のよさとの違いに気づかせ、違いを認め、お互いに理解し、助け合おうとする心情を育てる。	

4. 実践例及び成果と課題

(1) 実践例

まず、第1次でグループごとに友だちと同じところ、違うところをさがし合うことをゲーム的に取り扱い、子どもたちの興味関心を高めるところから始めた。本来指導内容2-(3)として1時間で取り扱う資料を今回は興味関心を高めるためにいわば導入的に取り扱ったのである。このことを通して、子どもたちはグループの友だちと楽しく考えながら、お互いの違いに気づくことができた。

これを受けて、第2次第1時では国語で学習した金子みすずの「わたしと小鳥とすずと」を資料にして違いのよさをさらに深めていった。作者がこの詩どんな気持ちで書いたかを考え、小鳥もすずもわたしもそれぞれ違ったよさを持ち、それを認めることがすばらしいことであることに気づかせた。そこから、違うことのよさを互いに認め、互いのよいところを結んで詩を作った。「あの友だちは だけど、わたしは 」という文章を考え、全員の「わたしは 」の部分だけをつなぐことで詩が完成した。最後に全員で「みんなちがって、みんないい」と声をそろえて読むことで詩を締めくくった。引き続きの第2時では「心のノート」の「ひとりじゃないからがんばれる」で友だちと信じ合い、助け合うことを感じ取らせた後、「友だちよいところを見つけよう」で、グループの友だちのよいところを書き合い、互いに読み合った。最後に友だちが書いた自分のよいところを1枚の紙にまとめて貼り、その後教室に掲示した

(2) 成果と課題

3時間を使い、ゲーム的な内容や子どもたちの大好きな詩を資料に使ったことで子どもたちは興味・関心をもって考え、友だちとの違いや互いのよさを認め合うことができ、「みんなちがって、みんないい」ということに気づくことができた。そのことを通して他の個性を認識し、相互に尊重し合おうとする心情を育てることができた。今後さらに、体験活動等とも関連を持たせることでより子どもたちの内面に訴えていく必要がある。

また、学級指導的になってしまったことも大きな反省材料である。

道徳ノート「みんなちがってみんないい」
名前()

あの友だちは

算数がとくい

だけど、わたしは、

音楽がとくい

みんなちがって、みんないい

友だちが見た、わたしのいいところ

そうじできちんとやっている。きれいずきと思います。

おんどくをがんばっていたからいまは、じょうずだと思います。

そうじをいっしょうけんめいがんばるからすごいと思います。

わかっていなかったのに、みんながおしえてくれたからうれしかった。

